

マダニにご注意ください!

山や草むらでの野外活動の際は、ダニに注意しましょう。

マダニはどこにいる?

マダニは森林や草地、畑、あぜ道などの屋外に生息しており、近づいてきた動物や人に咬みつки、吸血します。

マダニの多くは、春から秋にかけて活動が活発になります。

注意!



マダニが媒介する感染症は

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)をはじめ、マダニが媒介する感染症にかからないようにするためには、**マダニに咬まれないようにすることが重要です。**

主な感染症の種類

○重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

SFTSウイルスに感染すると、6日から2週間程度の潜伏期間を経て、発熱、消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)などの症状が出ます。重症化し、死亡することもあります。

○日本紅斑熱

日本紅斑熱リケッチアという病原体を保有するマダニ類に咬まれることで感染します。症状は高熱と紅斑で、感染してから2日から8日で発症します。

○ライム病

ボレリア属細菌による感染症で、主にシュルツェマダニという、本州中部以北の高地や寒冷地に生息するマダニに咬まれることで感染します。症状には、遊走性紅斑や発熱、神経症状などがあり、感染して3日から32日(平均7日から10日)で発症します。

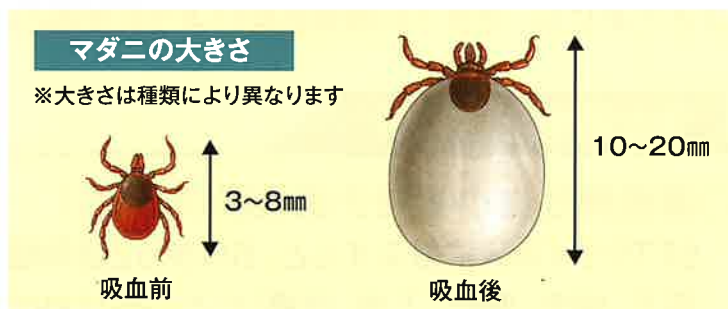
マダニに咬まれないための注意

- ・森林や草地などに入る場合は、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、首にはタオルを巻く等、**肌の露出を少なくしましょう。**
- ・マダニをよせつけないためには、忌避剤（虫よけ剤）の使用も補助的な効果があると言われています。
- ・野外活動後は、着替えや入浴の際にマダニに咬まれていないか確認しましょう。
(特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛の中）に注意）



マダニに咬まれたときの処置

- ・マダニの多くは、人や動物に取り付くと、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、長時間（数日から、長いものは10日間以上）吸血します。**咬まれても痛みや痒みはほとんどない**ため、咬まれたことに気づかない場合も多いと言われています。
- ・無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残ってしまうことがあるので、吸血中のマダニに気がついた際は、**医療機関（皮膚科等）で除去**してもらうようにしてください。
- ・マダニに咬まれた後に発熱等の症状が認められた場合は、**医療機関で診察を受けてください。**また、受診の際にはマダニに咬まれたことを伝えてください。



相談窓口

衛生害虫の相談は、保健センターへ

千種保健センター環境薬務課（担当区：千種区、昭和区、瑞穂区、名東区） TEL.052-753-1973

中村保健センター環境薬務課（担当区：西区、中村区、熱田区、中川区） TEL.052-433-3064

中保健センター環境薬務課（担当区：東区、北区、中区、守山区） TEL.052-265-2256

南保健センター環境薬務課（担当区：港区、南区、緑区、天白区） TEL.052-614-2862

※上記以外の保健センターでも来所相談を実施しますが、現地調査などは上記4保健センターに引き継ぎます。